

震災からの復興活動に取り組むリーダーを、
短期・中期・長期の3つのフェーズで支援します

震災復興リーダー支援プロジェクト

Support our Disaster Recovery Leaders - Relieve, rebuild and re-start Japan

経過報告レポート (2016.9.12-2017.1.11)

Contents

- P.1-2 気仙沼右腕プログラム、募集START!
 - P.3 アメリカン・エクスプレス・サービス・アカデミー
東北イノベーション合宿 開催!
 - P.4 今季のトピックス
 - P.5 プロジェクトの進捗
- ご支援ご寄付のお願い

1 気仙沼右腕プログラム、募集START!



宮城県の北東部「陸中海岸国立公園」の南玄関口に位置し、美しいリアス式海岸を有する水産業と観光業のまち・宮城県気仙沼市。そんな気仙沼市をフィールドとした「気仙沼右腕プログラム」が立ち上がりました。総務省が推進している「地域おこし協力隊」の制度を活用して、気仙沼の基幹産業を支え、そして3年後には自ら気仙沼で事業をつくっていく人材を募集しています。NPO法人ETICは、気仙沼市との業務委託契約により、人材募集・マッチングを担当しています。

▽気仙沼右腕プログラム

<http://tohoku.localventures.jp/area/kesenuma/>

■ 5プロジェクト8名を募集中

気仙沼右腕プログラム第1期となる2016年度で、現在人材募集を行っているのは以下の5プロジェクト8名です。

- 日本各地で減少している林業家を目指しながら、木材を活かしたサイドビジネスの創出に挑む!
受け入れ事業者：気仙沼地域エネルギー開発株式会社
<http://drive.media/career/job/12676>



- 地域の多様な人材を繋ぎ、気仙沼のまちづくりと真ん中に関わる新たなプロジェクトを仕掛ける!
受け入れ事業者：気仙沼まち大学運営協議会
<http://drive.media/career/job/12806>



- これからの日本のロールモデルとなる、観光の新しい地域経営システム(DMO)を確立させる!
受け入れ事業者：一般社団法人リアス観光創造プラットフォーム
<http://drive.media/career/job/13678>



●これまで商品にならなかった豊かな水産資源を活かし、気仙沼を代表する商品を生み出す！
受け入れ事業者：気仙沼水産資源活用研究会
<http://drive.media/career/job/13285>



●気仙沼に興味を持っている人と、気仙沼のネットワークとの繋がりをコーディネートする！
受け入れ事業者：気仙沼市移住・定住支援センター「MINATO」
<http://drive.media/career/job/13055>



■自分なりの働き方・暮らし方を支える

気仙沼右腕プログラムのテーマは、「働き方・暮らし方の再定義」。

「都市から地方への転勤」「地域へ移住」と聞くと、「都会の競争から外れた」「都落ち」「都市より機会が少ない」まだまだそういったイメージを持っている人も多いかも知れません。

でも、あまりにも大きくなってしまった都市のシステムの一部として働くこと、そしてありたい暮らしとのギャップに、違和感を持っている人も少なくないはずです。

「働くとは何か」「暮らすとは何か」。その解を求めて、都市から地域に飛び込む人たちは増えています。

気仙沼が広げていきたい「働き方、暮らし方」とは、三陸リアス式の豊かな自然の恵みや景観、そして世界に開かれた港町が築いてきた歴史や文化を楽しみながら、持続可能な形で経済に変えていくこと。

夜には立場を越えて集い、新しい「遊び」や「楽しみ」を企画して、それがまた商売になったりすること。

行政も民間も、地場の経営者も外から来た若者も、老若男女も関係なく、気仙沼をフィールドに、遊ぶように働き、働くように遊ぶこと。

気仙沼では、多くの人が持つ従来のネガティブなイメージを覆すような他地域のモデルとなる働き方や、都心では実現出来なかった暮らし方が生まれています。

今回の気仙沼右腕プログラムでは、自分なりの「働き方、暮らし方」を実現する機会を気仙沼が市を挙げてバックアップしていきます。

これまでの右腕プログラムでは、プロジェクト毎に右腕人材を募集・マッチングしてきましたが、今後は気仙沼という地域として人材を募集し、受け入れ、育成していくというまちの人事機能を強化していくお手伝いをETIC.としてサポートしていきたいと思っています。

2 アメリカン・エクスプレス・サービス・アカデミー 東北イノベーション合宿開催！

「震災の影響がいまだ色濃く残る東北の被災地で、地元根差して事業を行っている組織に対して、首都圏等から招聘した起業家のメンターと共に新たなサービス開発を行う」ことを目的とし、エリアの価値を高める新たなサービス開発をテーマに、2016年10月4日～5日に宮城県石巻市、および2016年11月25日～26日に福島県いわき市にて、「アメリカン・エクスプレス・サービス・アカデミー東北イノベーション合宿」を開催しました。

●豪華なメンターのもとで学ぶ機会

この合宿は、次のような特徴を持っています。

- (1) 単独組織ではなく近隣エリアの複数団体を面でサポート
- (2) 現地のハブ団体と連携したプログラム運営とアフターフォロー
- (3) メンターによる現場視察を前提としたメンタリング

特にそれぞれの分野で実績を持つメンターの存在は、合宿の参加者にとって非常に有意義なものとなっています。



合同会社巻組と連携して開催した石巻での合宿では、メンターに入川スタイル&ホールディングスCEOの入川秀人氏、株式会社ファミリア代表取締役の島田昌幸氏、NPO法人ATAMISTA代表理事の市来浩一郎氏、NPO法人西湘をあそぶ会代表原大祐氏をお招きしました。



また、いわきでの合宿ではNPO法人TATAKIAGE Japanと連携し、メンターとして株式会社まちづくりイレイティブ代表取締役の寺井元一氏、株式会社ファミリア代表取締役の島田昌幸氏、株式会社清左衛門代表取締役の秋葉秀央氏、株式会社熊野古道おわせ支配人伊東将志氏をお招きして開催しました。

●3つの成果

今回の合宿では、主に3つの成果を得られたと考えています。

まず、近隣エリアから複数団体で参加いただく事で、個人のみで検討するよりもエリアという広い視野で、かつ、組織を横断したサービス開発や事業連携が加速しました。また、近隣エリア同士のみならず、市の中心地で活動する団体と沿岸部で活動する団体との協働にも議論が発展するなど、より広域での事業シナジーを考える場を提供することが出来ました。

また、今回は開催地を拠点にハブ的に活動していると連携して、プログラム組成・参加団体への告知・合宿当日の運営を行いました。各参加団体の個別事情やニーズ、課題点等を熟知している現地ハブ組織の関与により、参加団体の実態に即した合宿運営が可能となり、結果として、高い参加者満足度を得られたと考えています。また、合宿後のアフターフォローをハブ団体主導で行ってもらうことにより、単発でのイベント（合宿）ではなく、継続的なサポートが可能となりました。

さらに、事業計画書に対するメンタリングのみでは限界があると考え、メンターに可能な限り、参加団体の「現場」を見ていただいた上で、アドバイス・新規サービスのアイデア提供をしていただけるよう配慮いたしました。実際の店舗や活動拠点を訪問して、その場が持つ空気感や商品づくりの過程をリアルに体感することで、より実務的かつエリアにある多様な資源（候補）をもとにメンタリングをしていただけました。

今後もそれぞれの現地ハブ団体（巻組・TATAKIAGE Japan）と共に、合宿に参加いただいた組織の事業サポートを継続していきたいと考えています。

3 今季のトピックス (2016.9.12-2017.1.11)

■ 右腕合宿@福島・飯坂温泉 (12月10日 - 11日)

12月10日(土)～11日(日)の2日間にわたり、活動中の右腕を対象とした研修「右腕合宿」を開催しました。

今回は福島県飯坂温泉にある「みちのく荘」を会場に、現役右腕12名、OB5名、オブザーブ2名(計19名)が参加。右腕合宿の目的は(1)普段右腕と顔を合わせる数少ない機会ということもあり、お互いを深く知り、学び合うネットワークを築くこと(2)日々忙しい現場から離れた場所で自身や団体の活動を振り返ること、の2点。「前回の右腕合宿(9月)からの期間の自身のバイオリズムについて」「団体と関わりのある人たちから現状はどう見られているのかイメージ」「もっと価値を高めるためやってみいたいこと」など、参加者同士の会話を中心としたプログラムで構成をしました。

「右腕の同志はやっていることが違っても、理解し合える仲間だと感じた」「第三者目線で自団体を定義することで、新たな発見があった」という感想が参加者から挙がり、今後に繋がる関係性や気づきを得た機会になったようです。参加者アンケートの満足度調査では、前回に引き続き今回も全員から「他の右腕に参加を薦めたい」と回答を頂きました。



■ 「新・みちのく仕事」を「東北ベンチャーズ」にリニューアル



東日本大震災以来、「新・みちのく仕事」は、「スタートアップの集積地、東北へ」を合言葉に、東北の新しい可能性を伝えてきました。これまでの取り組みを通して私たちが気づいたのは、東北は“被災地”から、“未来の社会を創る場所”になっているということです。

地域内でのエネルギー循環モデルの創造、豊かな素材を活用した農業漁業の六次産業化、高齢化に向けた地域医療・福祉の取り組みなど、地域の資源を活かし新たな経済を創り出していく例は、人口減少社会に突入した日本の他地域にとってもヒントとなる事業であるはずで。

そこで私たちは、「新・みちのく仕事」で紹介してきた東北での取り組みを発展させ、「ローカルベンチャー」の挑戦をさらに加速させることで、東北を“被災地”から“未来の社会を創る場所”へと再定義する取り組みへとステップアップしていくことを決めました。

「東北ベンチャーズ」は、東北のローカルベンチャーの事業に参画したい個人を対象にしたプログラムやスクール、起業家を対象にした事業への支援などを提供し、東北のローカルベンチャーとその担い手を支えています。

■ 熊本復興右腕プログラム（6月17日～）



熊本地震からの復興、そして地域に活力を生み出していくために、ETIC.では、10数年来、ともに地域の若手リーダー育成に取り組んできた仲間である一般社団法人フミダスと連携し、「熊本復興右腕プログラム」を引き続き実施しています。

現在、2名の右腕が復興リーダーのもとで活動中です。（株式会社南阿蘇ケアサービスへ1名、株式会社くまもと健康支援研究所へ1名）

そして新たに、2つの事業体で右腕を募集しています。阿蘇さとう農園では、阿蘇での農業文化を次世代につないでいくべく、伝統野菜「阿蘇高菜」を軸に農業のブランディングをしていくマネージャーを募集しています。黒川温泉観光旅館協同組合では、名湯・黒川温泉を“第二のふるさと”とするファンを増やすべく、地域との連携・外への情報発信を担う右腕人材を募集しています。

現在、熊本では「今こそ立ち上がるべき」とこれからの熊本を担っていくための仕事や事業を創り出そうと、リーダーたちが動き出しています。そんなリーダーたちが切磋琢磨しあうようなコミュニティを創り、事業が加速するようなサポートをできる仕組みを今後創っていく予定です。

■ 詳しくはこちら
<http://kumamoto-migiude.com/>

4 プロジェクトの進捗

2017年1月11日の時点で、147のプロジェクトに250名の右腕人材が参画してまいりました。参画期間（1年間）が終了した右腕人材（社会人に限定）の約67%が継続して被災地に残り、そのうち21名は自ら起業するなど、彼らは被災地での重要な役割を担いつつあります。現役（参画期間中）の右腕とあわせると、現在148名の人材が、東北の担い手として活動を行っています。



5 ご支援・ご寄付のお願い

本プロジェクトについては、スタート以来、国内外の個人・団体・企業の皆様より大きな関心を頂戴し、現在のご寄付・助成金等の総額は、934,640,913円という多額のご支援をいただいております。この場をお借りしまして、改めて心より感謝申し上げます。本プロジェクトは、当初、2013年度末までの3年間を目安に取り組んでおりました。しかし、東北の復興が本格化していく中で、中核事業である右腕プログラムへのニーズは、更に高まってきており、2015年度末までの中長期計画を策定し、取り組んで参りました。

右腕プログラムは、2016年度より新たな5カ年計画を設定し、今後の東北の復興、さらには新たなローカルベンチャー推進に向けた取り組みへと進化を目指していきます。皆様におかれましては、「震災復興リーダー支援基金」のPRへのお力添えはじめとして、事業連携や各プロジェクトへの個別のご協力など賜りますよう、引き続きよろしくお願い申し上げます。

>>寄付ページURL http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/donations_support

《ご寄付の受付》

■ Global Giving

<http://www.globalgiving.org/projects/sponsor-fellows-for-tohoku-and-japans-recovery/>

※米国在住の方は、GlobalGivingから寄付していただくと、税控除を受けることができます。

■ American Express (メンバーシップ・リワード)

http://catalogue.membershiprewards.jp/viewAwardDetail.mtw?productId=4487681&categoryName=jp_21a_charity_tohoku

※アメリカン・エクスプレスのカード会員さまは、ポイントによる寄附ができます。

連絡先・お問い合わせ先

◆NPO法人ETIC内 震災復興リーダー支援プロジェクト事務局（担当：山内・押切）

東京都渋谷区神南1-5-7 APPLE OHMIビル4階

mail : fukkou@etic.or.jp Web : <http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/index.html>